

# 事業報告書

平成 23 年度いきいき子育て応援事業

事業名 | 生きるチカラを育む子育て(親子と支援者の立場で学ぶ子育てサポート力向上プログラム

- ① チッチメソッド・チャイルドコンサルタント ～アドラー心理学に基づく子育て支援者養成プログラム～
- ② ひとりで悩まないで！「楽育ワーク」～もっと子育てを楽しく、楽に考えられるように～

報告者 | 一般社団法人チカク 代表理事 赤木美子

2012 年 3 月 12 日

## 1. 今回の事業の目的

- ひきこもり・ニート、頻発する凶悪事件、止まない虐待事件……。そして、東日本を襲った未曾有の大災害。これからの日本でますます必要となる「社会と調和して力強く生きていける子ども」を地域で育む支援従事者の育成と、その質的向上をめざす。
- 思い切ってまとまった時間数をかけた研修と、講師によるワークショップ（実習）の組み合わせで、地域の子育てサポート力を向上する。

## 2. 事業目的の対象となる参加者

- 「チッチメソッド・チャイルドコンサルタント」は、志ある子育て支援事業に従事する人材。事例研究の意味から保護者の立場から学びたいという希望者を数名受け入れた。
- 「ひとりで悩まないで！楽育ワーク」は、主に子育て中の保護者をターゲットとし、その悩みに寄り添うワークショップと、支援者の視点から振り返る実習を組み合わせた。

## 3. 目標の達成度

- 目標 | 発想の転換、問題の顕在化。具体的な方法論を学び、現場で体験する
- 結果 | 保護者・支援者の立場の両面から、固定観念を外すことができたように思う。また個々の体験談として事例を発表した参加者と問題点を共有し、その問題・参加者に対する講師の支援を目のあたりにすることで、支援者としてのスキルアップ、保護者の気づきの機会になった。

#### 4. 事業参加者等、受益者の満足度（アンケートや事業終了後の参加者の感想などから）

- 講師の圧倒的な知識・支援のスキルを間近に見て体験し、さらに自らの問題を深く掘り下げ自省する場面が多々あった。記述式のアンケートにその痕跡が伺える。
- この講座で使われたアドラー心理学の手法では、参加者の問題点を、家庭での対象者（親子）の会話レベルに落とし込み、そこでどんな感情のやり取りが行われたのか明らかにしつつ、どのような別案が存在したか、本人を含め参加者で討議していく。印象深かったのは「あらゆる支援機関・講座などを受けたが子育てが苦しい。20時間で子育てが楽になるのであれば受講したい」と申し込みのあった保護者。頑なな態度が日を迫うごとにほぐれ、彼女自身もさまざま葛藤の中で自ら考え実際の子育ての場面で学んだことを実践し、子どもとの関係性に改善が見られた。彼女の存在とその問題提起は、すべての受講生に深く考える機会を与え、感動的でした。

#### 5. 結果

##### 想定内でよかったこと…

- 講師の圧倒的な知識、支援のスキルの高さ。期待以上であった。参加者同士の交流も生れ、参加した関係者から、子供向け防災プログラムの出前講座の依頼をいただいた。

##### 想定内で悪かったこと

- 倉敷市の支援センターよりまとめて申し込みがあり受け入れたが、欠席が多かった。

##### 想定外でよかったこと

- 深刻な問題を抱える保護者から支援講座に申込があり、聞き合わせた内容とその個性が強烈で受入を迷う場面があった。講師と相談の上、支援を一番必要としている人を救うことが出来ればと思い受け入れた。
- 下掲の事由により、カリキュラム・テキスト変更を行い、参加者の費用負担が軽減、受け入れ人数も増加することができた。

##### 想定外で悪かったこと

- 講師とアドラー・ギルドとの連絡の行き違いにより、①支援者向け講座が当初タイトルに挙げた「パセージ」の名称・テキストを使って実施することが難しいことが判明したため、趣旨をそこなわない範囲でカリキュラムを変更。このため日程が当初の目論見より遅くなった。



1. 楽しい子育ての工夫(勇気づけとは) | 2012年12月4日(日)



2. 子どもの発達・安全(虐待防止の工夫) | 2012年12月18日(日)

